

ユニリタマガジン

UNIRITA

vol.83

Magazine



特集

「うまくいった現場」には理由がある。
事例から学ぶ IT活用と課題解決のヒント

日東工業株式会社 様

郵送代を中心に月80万円超のコスト削減、リードタイムの短縮を可能に

【長野市民病院 様×ユニリタ】の挑戦

生成AIで実現する医療現場の働き方改革

その他のIT活用事例

AI時代を生き抜くヒントがここに!

「第19回システム管理者感謝の日イベント」開催レポート!!

「うまくいった現場」には理由がある。 事例から学ぶ IT活用と課題解決のヒント

NITO 日東工業

日東工業株式会社 様



郵送代を中心に月80万円超のコスト削減、リードタイムの短縮を可能に
業務の自動化でDX推進の加速に寄与する「まるっと帳票クラウドサービス」



1日に最大15,000個を超える製品を発送している日東工業株式会社（以下、日東工業）では、納品書のペーパーレス化に向けて、ユニリタの「まるっと帳票クラウドサービス」を採用。手作業で行っていた納品書の印刷から郵便局への局出しまでを電子化することで、大幅な業務改善と月80万円を超えるコスト削減を実現しています。

課題

- ✓ 2,600枚を超える紙を毎日出力、毎月かかる郵送代の負担が大きい
- ✓ 納品書が取引先へ到着するまでに長くて1週間を要するケースも
- ✓ 納品書を郵送していたため、印刷・封入封緘、郵便局の局出しへの作業負担

解決策

- 紙を57%削減することに成功、郵送代は月80万円以上削減
- データ投入後、翌日には納品書がWeb配信、リードタイムを大幅短縮
- 電子化によって作業負担の大幅軽減を実現

導入効果

高圧受電設備や分電盤をはじめとした電気機械器具の製造・販売を中心に事業を展開している日東工業では、顧客に郵送していた納品書のペーパーレス化を推進するべく、ユニリタが提供する「まるっと帳票クラウドサービス」を採用。納品書の出力や封入封緘、郵便局への局出しなど人手のかかっていた作業負担軽減を実現している。

紙による納品書発送業務を大きく刷新、 ペーパーレス化に向けた環境整備を推進

電気機器の製造・販売を手がける日東工業は、全国の営業所や工場から年間膨大な製品出荷への対応をしています。その物流を担うのが、同社最大の菊川物流センターです。

「小型ブレーカーから大型の金属製キャビネットまで13,000点以上の在庫を常に確保しており、1日で多い時には、15,000個を超える出荷を行うこともあります。全国にいるお客様の需要に対して迅速に応えられるような環境を整備しています」と説

明するのは物流部 菊川物流センター 栗田 篤志氏です。

製品出荷にあたっては、納品先と請求先が異なるため、送り状とは別に納品書を郵送する必要がありました。1日あたり2,600枚超を出力・封入し、郵便局へ持ち込む業務が当たり前となっていたのです。



業務効率化、DX推進、人材不足への対応、そして生成AIの実用化など、ビジネスの現場が直面する課題は多様化し、ITの果たす役割はますます重要になっています。

今号では、ユニリタグループがこれまで支援してきた最新のIT活用事例をもとに、生成AIの導入による業務革新や、システム間のデータ連携による情報活用の高度化、自動化技術による作業負荷の軽減など、現場が直面したさまざまな課題をどのように乗り越え、具体的な成果へとつなげたのかを詳しく紹介します。

本特集を通じて、IT活用のリアルな事例から得られる課題解決のヒントをお届けします。

社内でDXの流れが強まるなか、郵便料金の値上げや納品書の到着遅延といった課題を背景に、納品書業務の電子化が本格的に検討され始めました。

紙の郵送も併用可能な「まるっと帳票クラウドサービス」がペーパーレス化の起爆剤に

現場運用を大きく変えずにペーパーレス化を進めたいというニーズに対し、導入が決まったのがユニリタの「まるっと帳票クラウドサービス」でした。



ユニリタとはすでに帳票作成ツール「DURL」での連携があり、既存資産を活かせる点が評価されました。また、紙での郵送とWeb配信を並行できる点も現場の安心材料に。「これまでの運用を踏襲

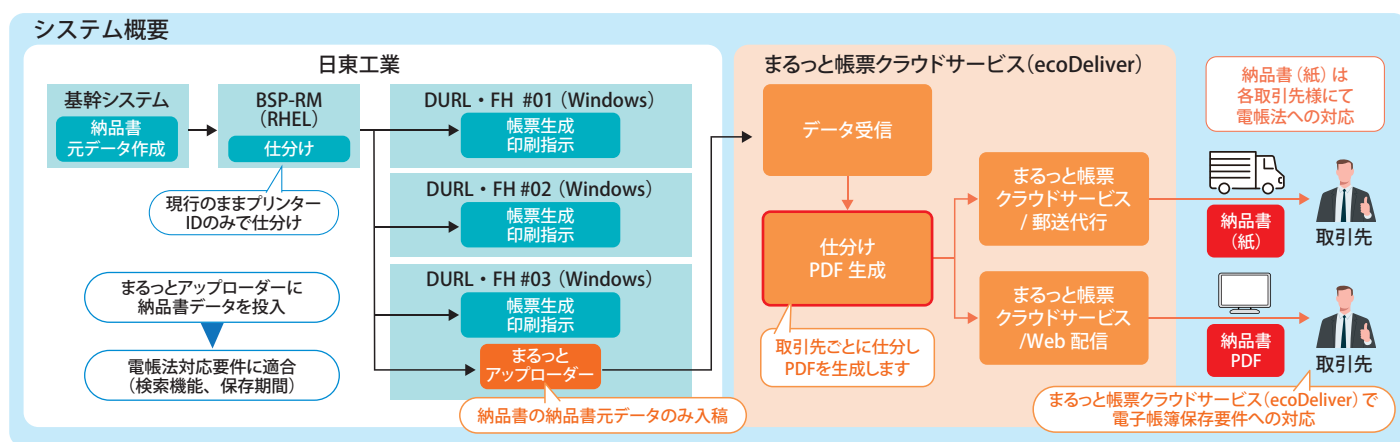
しつつ、確実に電子化できるのが決め手でした」と語るのは、物流部 菊川物流センターの神山 祐依子氏。営業部門の協力のもと、取引先への案内もスムーズに進みました。

1年足らずで取引先の82%が電子化へ移行、月80万円超のコスト削減を達成

サービス導入当初は1年間で30%程度の移行を見込んでいましたが、実際には1カ月で60%、10カ月ほどで82%の取引先がWeb配信へと移行しました。

基幹システムから出力された納品書データは、帳票作成と配信先フォルダへの振り分けまでを自動化。物流部門では、PDFが正しくアップロードされたかの通知を確認するのみとなり、紙の印刷・封入作業は不要になりました。

その結果、納品書業務だけで月80万円超のコスト削減、紙の使用量は57%削減、納品書到着までのリードタイムも数日から翌日へ短縮されました。



電子化実現の立役者： 本社情報システム部の存在

導入検討段階から構築、本番稼働まで物流部とプロジェクトを伴走してきた本社情報システム部はなくてはならない存在です。業務要件は物流部で把握しているもののシステム要件に関しては情報システム部営業システム課が主導で進めてくれました。特にWeb配信までのシステム構成検討からシステム導入の準備、検証テストまで、各種サポートがあったことが電子化推進のポイントとなりました。

情報システム部という強力なパートナーがいたらからこそ、安心かつスムーズにプロジェクトを進めることができた、栗田氏は当時を振り返ります。

電子化100%に向けた啓蒙活動とともに、 Web配信基盤を他業務へも展開したい

今回の取り組みは、同社の中期経営計画に掲げる基本方針「進化の加速」にも合致したものであり、社内におけるDX推進の成功事例となりました。

現在は営業所単位で取引先の電子化状況を可視化し、100%移行を目指した働きかけを継続しています。また、今回構築したWeb配信基盤は他の帳票業務への展開も検討されており、全社的な業務効率化・ペーパーレス推進に貢献する基盤として期待が高まっています。

今回紹介した日東工業の事例は、現在記事を作成中で近日中に公開予定です。ぜひ「まるっと帳票クラウドサービス」のWebサイトをご確認ください。



<https://marutto-chohyo.unirita.co.jp/>

生成AIで実現する医療現場の働き方改革

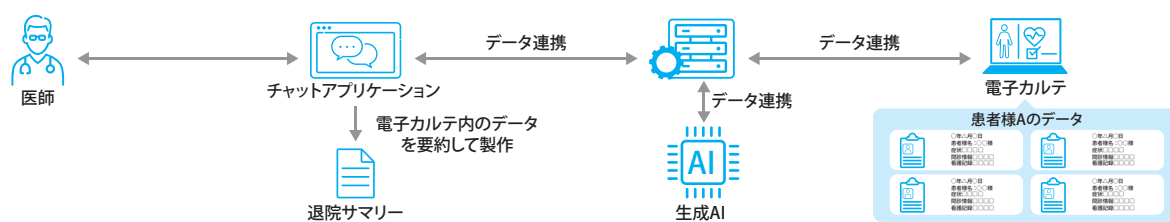
医療現場における働き方改革は、多くの病院が直面する喫緊の課題です。長野市民病院様とユニリタが連携し、生成AIを導入することでどのように働き方改革を推進し、同時に生成AI活用時のセキュリティリスクをいかに低減しているのか、その具体的な取り組みを紹介します。

課題

- ✓ **看護記録の読み書き**: 看護師は1日あたり約8万文字(1患者あたり200文字相当)にもおよぶ膨大な看護記録を作成していました。さらに、情報収集のために早出残業で約2,400文字(受け持ち患者4人×3日分の記録)を読み解く必要があり、多大な時間を費やしていました。
- ✓ **マニュアル・ナレッジ検索**: 看護手順や付き添い基準、転院時の必要書類といった膨大なマニュアルやナレッジの中から、必要な情報を探し出し、その内容を正確に理解するまでに多くの時間を要していました。
- ✓ **退院サマリー作成**: 電子カルテに蓄積された患者の長文記録を要約し、退院サマリーを作成する作業は非常に大きな負担でした。担当患者全員分の退院サマリーを、推奨されている期限(退院後2週間以内)までに作成するには、作業時間の確保が大きな負担となっていました。

解決策

- **看護記録の読み書き**: 看護記録の要約と情報収集の効率化により、年間で約2,700時間の業務時間削減につながります。
- **マニュアル・ナレッジ検索**: 必要な情報に合わせたドキュメント内の情報要約と回答生成が可能になります。これにより、ドキュメントの検索と内容把握にかかる時間が大幅に削減されます。
- **退院サマリー作成**: 電子カルテの確認作業が削減され、退院サマリーの作成効率と品質が向上します。



導入効果

- **情報セキュリティにも配慮した、安心・安全な生成AIの導入を実現**
生成AIの導入においては、その利便性と同時に「要配慮個人情報」の取り扱いが大きな課題でした。健康診断の結果や診療記録などは慎重な管理が求められる情報であり、これらが生成AIの学習データとして利用されたり、クラウド経由で漏えいしたりするリスクをいかに抑えるかが重要なポイントです。
 - **生成AIとのAPI連携**
生成AIとのやり取りにはAPIを活用し、データの取得のみに限定。生成AIが学習することではなく、要配慮個人情報が生成AIに蓄積されることを防ぎます。
 - **クラウドとローカルデータベースの分離**
学習に必要なデータはローカル環境に保存し、クラウド上のベクトルデータベースには一切保存しない設計とすることで、クラウド起因の情報漏えいリスクを排除しました。
- これにより、業務効率化と高度な情報セキュリティの両立を実現し、医療現場において生成AIを安心・安全な活用できる環境を構築しました。

「生成AI連携オプション」が実現する安全な生成AI活用

今回の事例で活用されている生成AIの業務活用を推進する特許取得済みサービス「生成AI連携オプション」は、情報漏えいリスクを抑えながらセキュアに生成AIを業務に利用できるソリューションです。「生成AI連携オプション」の主な特長は以下のとおりです。

情報漏えいリスクを抑えた独自のセキュア実装

特許取得済みの独自技術により、機密性の高い情報を保護します。

管理者や利用者も、生成AIに関するノウハウがなくても利用可能

専門知識がなくても容易に生成AIを活用できるため、導入のハードルが低くなります。

独自のハルシネーションチェック機能で誤答を抑制

ハルシネーション(生成AIの誤った回答)を抑制する機能により、生成AIの活用における信頼性を高めます。

本記事は、長野市民病院様とユニリタによる生成AI活用に向けた取り組みをもとに、取材前の情報に基づいて構成された内容です。今後、正式な事例として紹介する予定です。

詳しくはこちら

<https://waha-transformer.com/about/generative-ai-option.html>

その他のIT活用事例

ユニリタグループでは、業種・業態を問わず、さまざまなIT課題の解決に取り組んできました。Webサイトでは、お客様の課題や導入背景、解決アプローチ、導入後の効果をまとめた事例を多数掲載しています。

詳しくは各リンク先よりご覧ください。

事例 1 ETLとBPMで部分最適化された仕組みと統合利用できる環境を整備

Waha! Transformer

運用保守業務に役立つ「活用DB」の生成に貢献する「Waha! Transformer」



KDDI株式会社様



詳しくはこちら

<https://waha-transformer.com/case/kddi>

課題

- 通信ネットワークの運用保守において自動化や省力化に向けた業務改革の必要性
- 複雑な業務手順による障害復旧プロセスを改善するための仕組みづくりが急務に
- BPMによる業務改善を進める過程で、データ活用できる情報を集める手法を検討

解決策

- 「Waha! Transformer」を活用し、現場の情報を円滑に収集・変換、「活用DB」の生成を実現
- ETLとBPMにより、社内になかったデータモデルやビューを生み出すことに成功
- 監視やオペレーションなど各種業務に関わるメンバーの総稼働時間削減に大きく貢献

導入効果

現場に点在する部分最適化された仕組みを活用して運用保守業務を行うなか、現場からデータを取得して変換、活用できるDBを生成する仕組みとして「Waha! Transformer」を採用。BPMでの業務プロセスのモデル化による業務効率化のための環境づくりに貢献。

事例 2 ユーザーファーストを前提としたビジネスモデル変革を成し遂げる

Waha! Transformer

周辺システムとの連携によってDX推進を強力に支援する「Waha! Transformer」



カシオ計算機株式会社様



詳しくはこちら

<https://waha-transformer.com/case/casiocomputer>

課題

- プロダクトファーストからユーザーファーストの事業戦略に向けた環境整備を目指す
- 従来型の見込生産方式から、受注生産方式を可能にする新たなバリューチェーンを模索
- わずか半年でECサイトと基幹システムを含めた周辺システムとの連携を行う基盤整備が必要に

解決策

- GUIで自由に開発でき、仕様変更にも柔軟に対応できる「Waha! Transformer」を選択
- 新たなバリューチェーンの基盤整備を半年で実現、DX戦略を強力にバックアップ
- ユーザーとタッチポイントを増やし、データ活用に向けた環境づくりに貢献

導入効果

API-HUBとして「Waha! Transformer」をデータ連携の中心に据え、新たなバリューチェーンを短期間のうちに構築することに成功。一人ひとりのユーザーに向き合う事業変革を実現するためのDX戦略構築に向けた重要な基盤のひとつに。

事例 3 提供するITサービスの品質に関わる情報共有と属人化の課題解消に貢献

LMIS

ITサービスマネジメントの高度化に必要な基盤となる「LMIS」



北陸コンピュータ・サービス株式会社様



詳しくはこちら

<https://www.lmis.jp/casestudy/case/hcs>

課題

- サービスごとにインシデント管理などの運用が属人化、部門間の情報共有も不足
- インシデント管理や問題管理などがExcelベースで個別最適化
- ITサービスのさらなる品質向上が必要に

解決策

- ITIL準拠のITサービスマネジメント環境を整備
- ITサービスマネジメントによるITサービスの高度化、標準化を実現
- ITサービスの品質、および組織力の向上に「LMIS」が貢献

導入効果

コンサルティングからシステム運用まで“お客さま起点”でさまざまなICTサービスを提供している北陸コンピュータ・サービス株式会社では、これまで個別最適化された形でITサービスマネジメントに取り組んできたが、サービスの品質向上を目指し、ITIL準拠のサービスマネジメントプラットフォーム「LMIS」を採用。データセンター事業を中心に、「LMIS」によってITサービスマネジメントの標準化、高度化を実現し、業務効率化にも大きく貢献している。

事例 4 ヤンマーグループ全体でのITSM運用の安定化に貢献

LMIS

80%のコスト削減に貢献する「LMIS」



ヤンマー情報システムサービス株式会社様



詳しくはこちら

<https://www.lmis.jp/casestudy/case/yiss>

課題

- 既存のITSMツールを最大限に活用できていないため、見直しが必要
- ITILに準拠したITSM運用を維持しながらコスト削減を実現する方法を検討
- ITSMツールと申請受付を実施している別システムでの二重管理による業務負担を解消

解決策

- ランニングコストを80%削減することに成功
- 既存運用の踏襲と新たな機能実装により、機能と価格の最適化を実現
- 問い合わせや申請のための基盤を統合し、二重管理を解消

導入効果

ヤンマーグループにおける情報システム分野の機能会社であるヤンマー情報システムサービス株式会社では、グループに展開するITシステムの運用を担うITSMサービスを提供していますが、その業務基盤のコストが膨らむなか、利用者からの申請業務の基盤統合も含めた環境づくりにユニリタが提供するITIL準拠のサービスマネジメントプラットフォーム「LMIS」を活用。80%のランニングコスト削減に成功し、安定したITサービス運用を実現。

事例
5

「Growwwing」の活用でカスタマーサクセスの実践的なモデルケースを確立、他部署への横展開も期待

Growwwing

散在する情報を集約し、顧客情報の一元管理を実現

RICOH リコージャパン株式会社 様



詳しくはこちら

<https://www.growwwing.jp/introduction/ricoh.html>

課題

- 顧客情報が一元管理できておらず、情報がシステムごとに散在化
- 顧客志向のプロアクティブなアクションを起こすプロセス自体が確立していない
- 手厚いカスタマーサポートと違い、カスタマーサクセスが未成熟

解決策

- 「Growwwing」が持つカスタマーカルテによって顧客情報の一元管理を実現
- アップセルなどこれまでできなかったプロアクティブな活動に向けた環境を整備
- カスタマーサクセスの実践的な事例をトレード帳票DXシリーズへ示すことに成功

導入効果

顧客情報の一元管理によって、アップセルなどプロアクティブな活動、チャーン防止の情報基盤を確立、障害時には障害の影響範囲調査が迅速に。実践的な事例をグループ全体に示すことに成功し、カスタマーサクセスに向けた全社的な取り組みの第一歩を踏み出すことができた。

事例
6

4,000名を超えるグループ全体の統合認証基盤を刷新

Digital Workforce

ワークフローの実装でID管理の効率的な運用を実現する「Digital Workforce」

sala 株式会社
サーラビジネスソリューションズ 様



詳しくはこちら

<https://dwf.jp/case/sbs.sala.html>

課題

- オンプレミス環境における統合認証基盤の老朽化
- グループ個社でID登録のタイミングや申請方法などが異なる
- ID登録や変更などが頻繁に発生、メンバーの作業負担が増大

解決策

- クラウドサービスを活用し新たな統合認証基盤へ刷新
- ワークフローの実装でID申請などの標準化を実現
- 個社ごとのID管理担当者にID申請・管理を移管し、グループ全体でのID管理体制を整備

導入効果

株式会社サーラビジネスソリューションズは、都市ガス・LPガスなどエネルギー供給事業をはじめとした生活関連企業で構成されたサーラグループのIT部門として事業を支えています。同社は、グループ個社ごとの登録内容に差異が生じていたID申請から登録・変更・削除までのIDライフサイクルを刷新すべく、新たな統合認証基盤としてユニリタが提供するIDaaS「Digital Workforce」を活用。ID管理の標準化を実現し、ID登録を含めた管理負担の軽減を実現しています。

事例
7

デジタルの力でリスク管理を高度化する「Chainable」のリスクコミュニケーション基盤を担う「CommuRing」

CommuRing

柔軟な連携で短期間でのサービスリリースに貢献する

**東京海上
ディーアル株式会社**

東京海上ディーアル株式会社 様



詳しくはこちら

<https://commu-ring.unirita.co.jp/case/tokio-dr.html>

課題

- 「Chainable」の開発にあたり、クラウド利用での高いセキュリティレベルを満たし、企業同士をつなぐ双方向のコミュニケーション環境の整備が急務
- 求められる機能を補うソリューションの提供だけでなく、サービスモデル実現に向けて、ともにサービス開発、事業推進を担えるパートナーとなってくれる企業であるかを重要視

解決策

- 企業間のコミュニケーションに対応可能な「CommuRing」を検討。企業同士を柔軟かつセキュアに連携させるための詳細な権限設定を新たに実装し、高いセキュリティレベルを実現
- ユニリタと協議を進めるなかで、ソリューションの機能性の高さだけでなく、上記の実装対応などの柔軟性の高さと事業推進を共創できる企業としても評価、「Chainable」のコミュニケーション機能の基盤として「CommuRing」を採用

導入効果

必要な機能をマイクロサービスとして部分活用できる「CommuRing」を「Chainable」のコミュニケーション基盤とすることで、パートナー選定からおおよそ8カ月後に「Chainable」リリースに成功。サービスローンチのリードタイム短縮に貢献。内製した場合と比較して試算したコストを削減。

事例
8

紙の使用量半減・郵送料は60%カット!請求書処理の自動化で業務変革を実現

 帳票
CLOUD SERVICE

社内外のDX推進を強力に推し進める武器として有用な「Wahal Transformer」

OURA

小浦石油株式会社 様



詳しくはこちら

<https://marutto-chohyo.unirita.co.jp/case/ourasekiyu.html>

課題

- 事業拡大に伴う作業量の増加
- 郵便サービスの変更による請求書配達遅延
- 電子帳簿保存法への対応

選定ポイント

- 自社システム環境との親和性
- ユニリタグループの総合サポート体制
- PDF帳票の対応

導入効果

請求書とエクセルデータの同時配信により、ヒューマンエラーが減少し、発行から配信までの時間が大幅に短縮されました。郵便事故による不達や再発行業務も解消され、作業効率が向上。ペーパーレス化と郵送料の削減も実現し、担当者の負担軽減や業務の属人化解消にもつながりました。これにより、請求書処理の迅速化を通じて顧客満足度も向上し、DX推進の一環として大きな成果を上げています。

※ 本事例は、ユニリタグループの株式会社ユニリタプラスが取材・作成しました。

事例 9 長井市がバス運行のデジタル化を推進!

バスロケーション、MANALYZEほか

業界初のバス停音声案内とバスロケーションで
運転手の負担軽減、利用者の利便性を向上

山形県長井市 様



詳しくはこちら

https://www.unitrand.co.jp/casestudy_post/nagai/

課題

- バスの現在位置をリアルタイムで把握できない
- 利用者がバスの運行状況や乗り方を把握しづらい
- 音声案内がなく、運転手への依存が大きい

解決策

- バスロケーションシステムの導入によるリアルタイム位置情報の可視化
- 路線検索・接近情報のWeb・スマホ提供による利用者向けナビゲーション機能の整備
- 自動音声案内システムと降車告知ボタンの導入による運転手の負担軽減と利用者の安心感向上

導入効果

サービス導入後は、管理側がバスの運行状況をリアルタイムで把握できるようになり、利用者からの問い合わせ対応が迅速に行えるようになりました。また、自動音声案内と降車ボタンの導入により、運転手は運行業務に集中できるようになり、利用者も安心してバスを利用できるようになりました。さらに、路線検索や接近情報の提供により、初めて利用する方でもスムーズに目的地まで移動できる環境が整いました。

DR 株式会社データ総研

事例 10 各部門が独自システムを構築し、データ連携が困難な状況を変革。
ひとつひとつの「言葉」を再定義するなど、丁寧な支援で積年の課題解決へ。

MDMソリューション

2府16県の鉄道ネットワークを支える設備メンテナンスの最適化を目指して。



西日本旅客鉄道株式会社 様



詳しくはこちら

<https://jp.drinet.co.jp/case/westjr>

課題

- 鉄道DXを推進するため、データを社内ですべて誰でも使える「データの民主化」が求められている
- 部門ごとにシステムを構築しており、横串でのデータ連携ができていなかった
- たとえば「駅」の定義が各部門で異なるなど、マスターデータマネジメントを実施したくても困難な状況にあり、これまで何度も同様の取り組みをして頓挫してきた

解決策

- まず「なぜマスターデータマネジメントが必要なのか」を明確化するため、ビジネス課題を整理。それぞれの課題を深掘りしてどのようなデータが必要なのか、マネジメントのプロセスはどうあるべきか、ルールをどう規定するかを決めていった
- 「駅」など社内ですでに使われる用語をひとつひとつ再定義し、社内に展開する際には、データ活用の基盤として機能するよう整備した
- さまざまなサービスを横断したデータ活用で、よりよい提案を目指す

導入効果

これまで十分に深掘りできていなかったビジネス課題を全社で共有するきっかけとなり、長年実現が難しかった社内横断型のデータ連携についても具体的な糸口が見えてきました。その結果、各部門がデータ連携の必要性を共通認識として持てるようになり、業務プロセスの変革にとどまらず、組織変革や人材育成といった次のステップへと進む道筋が見えてきています。

UNIRITA+ 株式会社ユニリタプラス

事例 11 Snowflakeを用いた統合データベースの構築と、MDM利用で大活躍!

Waha! Transformer A-AUTO

「Waha! Transformer」、「A-AUTO」を活用したデータ
統合プロセスの最適化



日世株式会社 様



詳しくはこちら

<https://www.uniritaplus.co.jp/case/nissei>

課題

- データの散在
従来は社内の複数のシステムにわたってマスタデータが散在している状況だった
そのため、データの一貫性と整合性の維持が困難になっており、各システムが持つ異なるデータ項目を統一的に管理する必要があった
- データ連携の非効率性
各システムに分散されたデータを集める過程で、データ連携の効率が悪く、時間とリソースが過剰に消費されていた
特に、リアルタイムでのデータ更新が求められる業務プロセスでは、この非効率性が顕著に問題となっていた

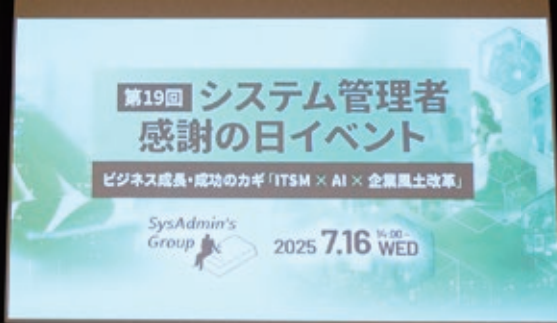
選定ポイント

- 過去の実績と信頼性
以前から使用していたツールであり、新たに別のシステムへの切り替えを考慮したが、既存のツールの方が使い勝手が良く、導入への障壁が低かったため、「Waha! Transformer」と「A-AUTO」を選択した
- 親密なサポート
ユニリタプラスのSEは業務を熟知しているため、問題が発生した際の対応が迅速かつ気軽に相談できる。そのため、効果的なトラブルシューティングが期待できた

導入効果

従来、周辺システムへのデータ連携や更新作業は手動で行われており、作業効率の低下や人的ミスの発生が課題となっていました。そこで、RPAとジョブ管理ツール「A-AUTO」を連携させることで、マスタ連携の自動化を実現。これにより、データのアップロードやシステム間の同期といった作業がすべて自動で行われるようになり、作業時間の大幅な削減とミスの低減につながりました。また、「Waha! Transformer」と「A-AUTO」の導入を通じて、社内でのシステム開発やデータ管理プロセスが格段に容易になりました。外部ベンダーに依存せず、自社のリソースを活用して、より迅速かつ柔軟にシステムのカスタマイズやアップデートを行える体制が整い、開発の内製化を促進しています。

AI時代を生き抜くヒントがここに！ 「第19回システム管理者感謝の日イベント」開催レポート!!



去る7月16日（水）、品川インターシティホールにて毎年恒例のイベント「第19回システム管理者感謝の日イベント」が開催され、盛況のうちに終了しました。本イベントは、全国19,000名以上の個人会員、400社以上の賛同企業を持つ「システム管理者の会」によって毎年企画・実施されており、ITサービスマネジメント（ITSM）の実践者にとって、学びや交流の場として親しまれています。

今回のテーマは **ビジネス成長・成功のカギ「ITSM × AI × 企業風土改革」**

19回を迎える今回のイベントテーマは、ビジネス成長・成功のカギ「ITSM × AI × 企業風土改革」。ITサービスマネジメントを実践する、ITサービスマネージャーの視点で、生成AIをはじめとする新しいテクノロジーを受け入れ、使いこなす環境や企業風土について考える機会やきっかけを紹介しました。

講演①: AI革命の第二幕:もっともっと欲望を語り合おう!

株式会社グラフィアー 代表取締役 **石井 大地 氏**



昨年に引き続き、2回目のご登壇となった石井氏。前回は「AIの可能性」や「AIとの向き合い方」についてご講演いただきましたが、今回はその続編として、「1年経ったAI環境の変化」と「最新の活用方法」についてお話しいただきました。ご講演では、AIの利用コストが大幅に下がり、その性能も飛躍的に向上していることに触れつつ、「AIを活用すれば、生産性を2000%向上させることも可能です」といった非常にインパクトのあるメッセージも飛び出しました。参加者からは「実践のヒントが得られた」「今後の業務に活かしたい」といった感想も多く寄せられ、AIとどう向き合うかを改めて考える貴重な機会となりました。

講演②: AI時代の戦略的生き方のすすめ～変革と成長を促す思考法

教育改革実践家 リクルート社初代フェロー／
和田中学校・一条高校元校長 **藤原 和博 氏**



多くの著書を執筆され、テレビやメディアでも幅広く活躍されている藤原氏には、今回、非常にユニークな講演をいただきました。その内容は、講演というよりも「ライブ」のようで、聴講者全員がブレインストーミングという形で講演に参加し、一人ひとりが課題を実感しながら思考を深めていく、非常にアクティブで楽しいものでした。AIが今後避けては通れない存在であるという前提のもと、これからの時代に求められる力として「情報の編集力」の重要性を強調されていました。単に情報を処理するだけでなく、それらを組み合わせる新たな価値を生み出す力、まさにAI時代の人材に求められる本質が語られ、多くの参加者の心に響く内容となりました。

講演③: 2025年の崖は超えたか!? ますます重要になるITSMと人材

株式会社ユニリタ 取締役 専務執行役員 **藤原 達哉 氏**



昨年に引き続き、2回目のご登壇となった藤原氏。DXレポート公開後に話題を呼んでいる「2025年の崖」を企業は乗り越えているのかという話題提起から、ITSMの重要性とITサービスマネージャーに求められる3要素についてお話しいただきました。

システム管理者の会アワード



アステリア株式会社 様

さくら情報システム株式会社 様

恒例の「システム管理者の会アワード」では表彰式と共に各社取り組みの発表も実施しました。

表彰企業：
株式会社アグレックス 様
アステリア株式会社 様
さくら情報システム株式会社 様
日本情報通信株式会社 様
大和ライフネクスト株式会社 様

当日の様子を動画で視聴できます!

「第19回システム管理者感謝の日イベント」の様子は、システム管理者の会Webサイトにて公開中です。

[詳しくはこちら](#)

https://www.sysadmingroup.jp/event_seminar/movie/

※動画のご視聴については、事前の個人会員登録が必要となります。

開催報告Webページ

システム管理者の会Webサイトにて、より詳細な開催報告を掲載しています。

そのほかの情報もあわせて、システム管理者の会に興味をお持ちの方は、ぜひご覧ください。

[詳しくはこちら](#)

https://www.sysadmingroup.jp/seminar_event/thanks_day/report/year-2025/



www.unirita.co.jp

株式会社ユニリタ

本 社 〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟
名古屋営業所 〒451-0045 名古屋市西区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル

ユニリタグループ

株式会社ビューアップテクノロジー / 株式会社データ総研 / 備実必(上海)軟件科技有限公司 /
株式会社ビーエスピーソリューションズ / 株式会社ユニ・トラント / 株式会社ユニリタプラス /
株式会社無限 / 株式会社ユニリタエスアール

※ 本誌掲載の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

※ 掲載されている内容については、改善などのため予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

©2025 UNIRITA Inc. MG83-2508-800-1